

第7回西谷地区学校づくり検討委員会
会議概要

開催日時	令和6年(2024年)11月29日(金) 15:30~17:30
開催場所	西谷小学校2階 多目的室
出席者	【委員】17名 (欠席)3名 【教育委員会事務局】5名
次第・議事	1 開会 2 会議の成立及び公開について 3 報告 (1) 令和7年度特認校制度募集にかかる問合せ・募集状況について (2) その他 4 閉会
会議の主な結果及び主な意見	特認校制度による就学に関する問合せや応募状況等について報告し、今回の結果を受けて、検討すべき事項に何があるかを委員間で共有・分析し、翌年度以降の特認校制度の取組につなげていくことを確認した。 次回の検討委員会は、翌年度の委員構成が決まる1月以降に開催し、テーマについては、どのような意見を受けて、どのように進めていくのか仕組みづくりから再検討していく。 ・辞退理由の1つである「地元で馴染めるか」については、特認校制度に限らず、移住促進に際しても大きな心配事であり、地元住民の意識も問われている。 ・きょうだいがいる場合に、すでに築かれている人間関係があり、きょうだいで別々の小学校に通うのか等、学校変更のハードルは高くなる。 ・「遠い」という辞退理由に関して、何らかの市の補助等があればと思うが、西谷の公共交通の問題を見ても、現実的に厳しい状況である。 ・西谷の特色ある教育については、面談でしっかりと説明した。「とても良い学校だった」という感想を見るに、一定伝わったのだろうと考える。 ・制度初年度にあたり、検討期間が短いために見送られた方もあったかと思う。周知はきちんとできたと思うが、認知・理解されるまでにはまだ時間がかかるだろう。 ・少なくとも1人が就学を決められたのはとても喜ばしいことである。この1人を大切に、次につながるように働きかけていきたい。
会議録(概要)	
事務局	【1 開会】 本日は、スケジュールの調整もタイトな中、皆様ご協力いただきまして、お忙しい中お集まりくださり、本当にありがとうございます。 ～資料確認～ ～発言時のお願い～

委員長	8月の会議以降、少し期間が空いたが、本日、第7回の検討委員会を開催することができた。感謝する。 【2 会議の成立及び公開について】 本日、委員の出席が20名のうち12名であるので、会議は成立する。 (遅れて5人出席、計17名) また、本日は3人傍聴にお越しいただいている。 【3 報告】 (1) 令和7年度特認校制度募集にかかる問合せ・募集状況について
事務局	1 問合せ状況 教育環境整備課に21件の問合せがあった。内訳は、小学校について7件、中学校について11件、特認校制度に関することが3件である。 2 令和7年度の募集状況 就学するに際し、まずは学校と教育委員会で、お子様も含めて面談をしていただく。 学校からは、西谷でどんな教育をしているか、児童生徒の雰囲気、少人数による教育活動や影響、複式カリキュラム等の説明の他、通学のことなどを説明し、西谷小中学校での卒業を見据えての就学の意味確認をする。 次に、教育委員会との面談をし、学校と重複はするが、通学のことや、卒業までの就学の意味を念押しで確認をしている。 (1) 面談者数 問合せ件数21件のうち、15件が面談件数で、人数としては、小学校10人、中学校が9人となる。 面談希望者の居住地は、長尾、山手台、中山台、長尾台、丸橋、宝梅、高司、売布地域などになる。 (2) 面談等実施状況 ①小学校 1名が就学手続きに進んでいる ②中学校 就学には至っていない 次々年度対象児童の見学もあった 学校面談実施後、教育環境整備課から保護者に就学の意味確認をした際に、学校見学の申込動機、就学希望理由、辞退理由を差し障りのない範囲でヒアリングした。 【学校見学の申込動機】 ①伸び伸びした環境が子どもに合うのではと興味を持った ②少人数であれば、今より手厚く見てもらえると期待して ③いろんな進学先を考える選択肢の1つとして参考にしたい ④指定校はガヤガヤしている雰囲気なので、少人数校に魅力を感じた ⑤今の学校が通いづらいので、環境を変えてみたい

	⑥西谷移住を検討している 【就学希望の理由】 ①先生が目が行き届いている ②校長先生の子どもたちへの声かけが自然であった ③先生との距離が近い ④自然豊かな環境 【辞退理由】 ①8時過ぎに学校へ着くようにシミュレーションを試みたが現実的でなかった ②PTAが廃止されている小規模特認校を考えている ③これまでの人間関係に入っていけるかが不安である ④子どもが幼稚園のお友達と離れたくないと言っていたので ⑤友達が多いほうがいいと、子どもが言ったので ⑥通学に不安がある（朝が早い・電車バスの利用） ⑦見学前から分かっていたことだが、やはり遠かった ⑧特別な配慮が期待できないと判断した ⑨肯定的な検討材料より、否定的な検討材料の方が多かったため ⑩急いで決めずに、これからも検討していく 以上が、募集状況の報告になる。 今回の西谷地区学校づくり検討委員会では、委員の皆様と検討事項の共有を図りたいと考えている。どのような検討すべき事項があって今回の結果になったのかを分析し、令和8年度以降の児童生徒の募集に向けて考えていく必要がある。 個々の個人情報を本検討委員会では扱わないため、どこまでこの検討委員会で議論できるかといったところも、教育委員会で一度整理する必要がある。その上で、どのように対応していくかも含めて、次回以降の委員会でお話できたらと考えている。 委員長 限られた時間の中で、来年度からスタートするということで、事務作業等大変だったんではないかと推察するが、こういう形で応募があったということを報告いただき感謝する。思ったよりたくさんの方が、そして、広範囲から関心を持っていただいたということをお聞きして、それはよかったと思う。結果として小学校で1人、中学校で未定ではあるが1人が希望されているという状況で、それは嬉しい。資料を見る限り「辞退」と文字だけが強烈に浮かぶが、特にきょうだいもおられたりする中で、なかなか踏み込まれないというのは、もう少し考える時間が多い方が良いという感じなのか。今後に繋がっていくような、この辞退の中身があれば説明いただきたい。 それからやはり遠いとか、8時までに来るのは困難であるとか、物理的な要件がやはりあった。その辺をもう少し具体的に補足の説明をいただきたい。 もう1つ、PTAが廃止されるという理由があった。これはちょっと予期せぬ理由であったので、その辺も補足説明いただきたい。 事務局 皆さんからは「すごくいい学校だった」「すごく悩んだ」「学校も温かい雰囲気先生方もいい対応してくれた」というような声もあったのであわせて伝えておく。
--	---

	しかしながら、「やっぱり遠くて」とおっしゃっていた。そこからどうつなげていくかというのは本当に簡単なことではないと思うが、私自身は、この遠い中、こんなにたくさんの方が学校見学に実際に西谷を訪れてくれた、実際にこうして問合せがあって、時間を割いて、子どもが学校園を休んでまで見学に来られた方がこれだけおられたというのは、よかったのではないかなと思う。PTAの件は、校区外から西谷地域の学校に就学するから、PTA等にも入り、人間関係を築いていきたいが、共働きでそれも難しいと言われていた。 話は変わるが、ホームページ公開等についての報告も続けてさせていただく。 9月28日に広報たからづか10月号に載せた。そちらは市内に約11万部配布されている。「今月のトピックス」に記載され、それで問合せがあった。また、同日にホームページでも公開し、9月に280件、10月では340件、11月はちょっと落ち着いて、半ばぐらいまで91件。合わせて700件ぐらい、募集のページにアクセスされていたので報告する。また、すでにお伝えしている通り、読売新聞や毎日新聞に掲載された。 西谷の小・中学校の保護者様に対しての配信、市内全部の在学年保護者、在園児保護者様にメール配信、新小学校1年生1,880名ぐらいに対しては、就学時健診の通知に併せて紙面を送付した。あとは市内55の私立と市立の幼稚園保育園こども園にポスター掲示を依頼した。その中で、こういった結果であったことをお伝えする。
委員	先ほどの辞退理由の中で、何か肯定的、否定的とかとおっしゃったのをもう一度お聞きしたい。あと、特別扱いしてもらえないと思ったというのも、それがどういう特別扱いをして欲しいなと思っていたのか、もし分かれば教えていただきたい。
事務局	先ほど申し上げた否定的と肯定的というのは、メリット・デメリットということである。メリット・デメリットを考えたときに、すごくいい学校だとか、生徒皆があたたかいとか、そういった良い面に対して、朝早く起きないといけないとか、やっぱり毎日電車とバスが心配だとか、馴染めるかどうかとか、そういうことを天秤にかけたときに、辞めておくことになったという意味である。
委員	デメリットの方が大きいということか。
事務局	その方の判断ではそうなったということである。 それから「特別な配慮をいただけないと判断した」というのは、特別支援学級を希望された方である。特別支援学級のお子様に対しては、市内どこでも1つの学級に対して8名までと決められており、それは西谷でも同じであると説明した。それでもさらに手厚いんじゃないかとか、通常級との交流の中に期待するところがあられたようである。
委員	入学される新1年生の方の決め手というか、決断の理由は？
事務局	先ほど就学希望の理由でご説明させていただいたとおり、実際に見学されて、先生方や校長先生と児童生徒の距離感であるとか、先生の目が行き届いている、自然豊か

	な環境、そこが決め手になられたと。もともとこの方は西谷移住も考えられていた方である。
副委員長	教育環境整備課からマスコミに対して、記者発表していただいた上で、各社の判断でこの2社が載せていただいたという形であると思うが、内容については事前に知らされたりはあったのか。
事務局	記事にする際に、記者さんと何点かやり取りをさせていただいた。あとは直接ホームページを見られたりである。
事務局	原稿を見せてもらってこちらが文字のチェックするといったことまではない。
副委員長	新聞は無断でコピーしてはいけないということで、回覧で留め、あとはまち協が保存する。
委員長	1回で終わるわけじゃなくてこれがスタートであり、意見を言っていただくことが、次に必ず繋がると思うので何でもご意見をいただければ嬉しい。
委員	移住を考えておられる方がおられるということで大変嬉しい。 たくさんのお問合せがあったからこそ「辞退」の文字が目立つだけで、2、3人であれば全然目立たない。 先ほどPTAの話でもあったが、地元で馴染めるかという心配事。これは学校に来られる方だけでなく、やはり地域に移住する、西谷に来るという点で、誰しも心配する部分かなと思う。実際、まち協でも取り組んでいる移住促進の方でも、その辺を心配される方はかなりおられる。お祭りに寄せてもらえるだろうかとか、村の道作りとか草刈をしないといけないだろうかとか、町から来る人にすればいろいろ考えると思うんで、その辺、我々地元住民の意識も問われているかなというふうに感じた。 その辺はまち協・自治会連合会も今取り組んでいる部分で、どんどん来てもらう、入ってもらおうという観点からすると、古い体質は取り除きと言いながらも、やはりルールはあるということで、その辺を今後も、初めてのことでいろんな課題が出てくるのは当然のことだと思うので、今後もこういう会議を続けて、問題点を解決していく必要があると思う。何しろ、1人でも就学希望があったのは大変嬉しいというのが私の意見である。
委員	おひとりでも少人数でも来ていただけるっていう方がいたということはとても嬉しい。お問合せ理由等は、やはり自然環境とか少人数というところ。それは見れば分かることで、やはり西谷小中の特色というところをもっと前に出せていけたら、そこに関して触れていただけるような理由が出たかもしれない。あと交通の便。この特色と交通の2つに関して、また今後話していかなくてはと思う。

委員	1年目だから様子見、というようなご意見があったが、その方は入られないので、どう様子を見られるのだろうか。
事務局	ロコミとかだろうか？わからないが。
委員	今後何年かして、入ってきている人数とかわかっていって、それを見て、今後ちょっと検討しようかなという保護者さんも増えていく可能性があるだろうか。
事務局	今年度は制度始めて、見学から1週間2週間、早くに来られた方は1ヶ月ほどだが、その間で決めきれなかった人もおられると思う。 まだ今の学校にもう少し行ってみようとか、やっぱり今の学校が合わないなどという判断についても「様子見」と言えるかと思う。
委員	新1年生の場合、新しく校区の学校に入るということで、もし合わなかった場合、こっちに来られる可能性もあるということか。
事務局	そういうことになる。
委員	大体お伺いした内容は、ほぼほぼ想定していた。 では、例えば「どんな教育が」とか「何がアピールポイントで」とかいう教育の中身とかを聞かれる方があったのか？と思うと、そこはこれからなのかもしれない。 今の環境とか教育の内容が、もうすでに紹介できる中身だよというものもあるとは思いますが、その辺を強く聞かれた方があったのか。 あとはやはり交通の便。遠いとか、新1年生が1人で通うのは難しいという思いはわかるが、私はそのうえで、何かしら市として補助なり手段なりが今後提供されていく可能性があるのかというようなことも、問合せとしてはあったのかなと思うが、どうか。最終的に、今聞いた内容が辞退の決定的なところという捉え方でいいのか、それとも中には、もしこれがこうであればもうちょっと考え方が違ったかなというところがあったら、それが今後の我々の考えていけないといけない課題の大きな1つになるかなと思う。
事務局	今回問合せいただいた方は、教育内容というよりも、まずはチラシにも書いていたような、少人数できめ細かなとか、自然環境とか、そういったところに惹かれて見学を希望してこられていた。 交通の便については、皆さん遠いということは認識していただいていて、その中で見学に来られており、辞退者側から「スクールバスがあれば違った」みたいなお話はなかった。結果的にやはり遠かったというところ。 交通のあり方は、既に市の方でも補填なりしており、今後、この補助の上積みができるのかは、引き続き協議検討していくが、阪急バスさんの方も難しい状況であると聞いてるので、厳しい現状である。

委員	自然学校で不在であった1件を除き、すべての面談を行っているが、いろいろ学校の説明をするときに、もちろん、少人数の良さ、それから反対にデメリット的なことも当然言わないと、「聞いてません」と言われては困るんで、そんな話をしている。 私は以前にも西谷に2年間お世話になって、また南部の学校にも行って、そしてまた来させてもらっており、西谷のこと、南部の学校のこと、それぞれの学校の違いはよく知っている方だと自分は思っている。 まず少人数というのは、南部にはない。それだけでもまず1つこの良さがある。 それから、「地域密着型の学校である」と。他校でそういうことをやっているように見えても、ここほどではない。地域にどれだけ密着してやっているか、地域の資源を活かしながら、教育を進めているかというのは、ここほどのところはない。それが一体どんなことなのかということも全部お伝えした。 この自然環境、自然が良いというのは、ただ単に感じるだけでなく、それを活かしていること。 また、園小中の連携をやっていること。たまにはあっても、しょっちゅうあるというようなことがここにしかない。 そのことも私はきちっとお話をした。だから、ある意味先ほどの報告の中で、「学校に魅力を感じた」と言っていたいているのは、そこが伝わったのではないかなという嬉しさが少しある。 なので、今後、特色をまた考えていくというが、もう十分特色的なものはあると自分は思っており、それを育てながら、さらに何ができるのかということは考えていかないといけないが、そればかり言うと、今度「じゃあ勉強の面はどうか」となるので、やはり教科書をきちっとやり、やった上に、それをさらに進めて、地域密着型のことをたっぷりやっている。だからこの子どもたちは、園から中学生までみんな顔と名前が分かっている。そういう学校は他にないという話もさせていただいた。 なので、迷われた方はきっといらっしやると思う。今回、辞退とは書いてあるが、来年からは全部の学年対象であるということもお伝えしている。 きょうだいがいるから、きょうだい揃ってこっちへ来るっていうのはなかなか、もう人間関係ができてきょうだいの子がこっちに來るとするのはちょっとハードルがある。実は、ここに書かれている家庭でまだ他にきょうだいがおられて、1つの家庭で、2つの小学校をかけ持ちするみたいな状況があった。そんなことでいくと、通学のこともあるが家庭の事情もあるかなと。でも大分アピールしたので、ちょっと捨てがたいなと思ってもらえていたら嬉しい。
副委員長	かなり大変なスケジュールの中で素晴らしいチラシも作っていただき、ホームページもQ&Aを作ってかなり細かく説明を書きくださったり、広報だからづかの記事も写真入りでスペースをとってくださり感謝している。 私が思うのは、この1人という結果が、寂しい結果ではなく、何百もホームページを見てもらって注目が上がっているんで、この1人をもう徹底的に大事にして、次の来年度の展開をどうしていくのかというのがすごく大事なところである。

	もし今年度やってみた結果、こういうアイデアが浮かんだとかあれば教えていただけたら嬉しい。 あとちょっと残念ながら、こども園の方が、今回一番のターゲットだったけれども、やはりなかなか選ぶのが難しいという現状があったので、そのあたりについて差支えないところで知りたい。 あとアイデアとして1件、ぜひ、一対一の対応以外の、みんな集まって話を聞くような説明会や見学会のようなのをさせていただいて、小中PTCAとかこども園PTAの皆さんは大変だと思うが、集まれる保護者や地域のまち協とかで「スモッカ(移住支援)」の話をしたりとか、こんなあたたかい様子だとか、「西谷っ子ひろば(放課後の子どもの遊び場)」がありますとか、保護者同士の繋がりとかも、出せる機会があったら、もっと良い地域だなと分かってもらえるかなと思う。 先ほど認定こども園の子どもたちがターゲットだったという話だったが、今度1年生に上がる子たちが5人のうち、1人だけが、もともと西谷校区の子である。他の校区外の4人は、先ほどもきょうだいの話があったが、全員第二・三子である。 やはり、お兄ちゃんお姉ちゃんが、今のおうちの近くの小学校で友達関係を築いているので、そのお兄ちゃんお姉ちゃんと一緒に行くのか、残して下の子だけ来るのかというあたりのところで迷われたご家庭は多いと思う。 西谷の環境はいいと思ってくださっているのは話していても感じた。実際に随分悩んでおられると思った。 何かの折に、交通の便のことをすごく質問されていた。認定こども園の保護者の方なのでやはりお仕事されている方が多く、こども園の間は送り迎えしようと思ってはいても、やはり小学校となった時に、お休みさせずに、ご自分のお仕事を続けながら送ってくるのはなかなかハードルが高かったかなと思う。 決めるまでの期間も短かった。もう少し検討する時間があったり、来年度始めてみてどうだったかが感じられると、また検討していただけるのかなと思う。
委員	決断された方は、6年ないし9年間、往復約40km 送り迎えをしなければならない。相当な決断であったと思う。今後もスクールバスを出すとかそういうことはできないとは思いますが、辞退された中にも遠いとおっしゃっていたとあるので、何かいい方法があったらと思う。
委員長	これら複数の質問・意見について回答をお願いします。
事務局	説明会・見学の開催は学校と教育委員会で検討していく。 遠さについて、入学を決めた方は、公共交通機関も検討されていたので、毎日の送迎の負担があり続けるかは分からないが、ただ他の方々もやはり遠さ、毎回の送迎のお話はされていた。例えば、スクールバスを走らせるとなると、先ほども申し上げたように、今回中山台・長尾・山本地区以外からも申し込みがあったので、そういったところを

委員長	どうカバーしていくかとかという問題も出てくる。現状、阪急バスの維持が厳しいという問題もあり、交通については引き続き、阪急バスと協議していくこととなる。 令和7年度のスタートに間に合わないのはたくさんあるように思うが、翌年度以降のことについて今、貴重な意見を皆さんからいただいたので、それをまた協議しながら解決できる方向性を探っていけたら嬉しい。 せっかくこういう機会が集まって意見交換できているので、本日はこの後、委員会議時としては終了して、許される時間までフリートークとさせていただきたい。議事ではないので、よろしければ傍聴の方も自由に発言いただきたい。 ～フリートーク～
委員長	それでは時間となりましたのでフリートークを終え、会議を締めたいと思う。 次回以降の件についてはまた教育委員会の事務局の方と相談して、またご案内する。来年度の委員構成が決まっていくのは1月以降と聞いているので、次回は1月以降にさせていただく。
事務局	このたび（の応募者数）は想定の範囲内だと思う。しっかりと周知はできたと考えるが、周知と認知は異なる。この制度を市民にきちっと理解してもらうのには、少し時間がかかるのかなと思う。 こういうことをずっと重ねていくと、いろんな人の口コミも含めて、「いいよ」という言葉があれば、人が増えていくんだろうと思う。こうした取組、この1歩は、大きな1歩ではなく小さな1歩かもしれないが、積み重ねていって、振り返ってみた時には大きな1歩になっているんじゃないかなと思う。 交通手段のお話がたくさん出た。通学バスというよりも、そもそも西谷の交通手段が、もう少し整備されていたらとも思うが、こうした取組で子どもたちが増えることによって、そういう方向性が見いだせたらというそんな期待も込めて、子どもたちを増やすための特認校制度の充実を図っていけたらと思う。 次回以降のテーマについては、委員長からもお話があったとおり、どんな意見をもらい、どんな進め方をするのか、仕組みづくりから再検討し、新たなスタートを来年に向けて切る必要があろうかと思うのでまた皆様のご協力をお願いする。
委員長	それではこれで終わらせていただく。ありがとうございました。